

秋田市高齢者コインバス事業の効果と市民の受容意識に関する研究

秋田大学 学生会員 ○原田 彩
 秋田大学大学院 正 会 員 鈴木 雄
 秋田大学大学院 正 会 員 日野 智
 秋田大学大学院 正 会 員 木村 一裕

1. はじめに

近年、地方都市における路線バスの利用者は減少しており、サービス水準も低下している。そのため、自動車を運転できない高齢者の移動が困難となることが懸念される。秋田市では高齢者の外出を促すことを目的に、秋田市に住む70歳以上の高齢者が路線バスに1回100円で乗車できる「高齢者コインバス事業」を平成23年10月から実施している。

本研究では秋田市の「高齢者コインバス事業」を例に、事業に伴う高齢者のQOL(生活の質)向上効果を把握する。さらに、70歳未満である市民の事業効果の受容可能性を把握し、施策の有効性と今後の方向性を検討する。

2. 秋田市民に対する意識調査の実施

本研究では70歳以上用と70歳未満用の調査票を用意し、秋田赤十字病院、JR秋田駅前、秋田市泉地区で配布した。秋田赤十字病院、秋田駅前では70歳以上から87票、70歳未満から50票を回収し、泉地区では70歳以上から68票、70歳未満から106票を回収した。調査では被験者の属性、生活の満足度、路線バスの利用状況、高齢者コインバス事業についてを回答してもらった。

3. 高齢者コインバス事業に対する住民意識

(1) 事業に伴う事業対象者の行動変化

70歳以上である被験者の路線バスの利用頻度の変化を図-1、運賃に対する満足度を図-2に示す。

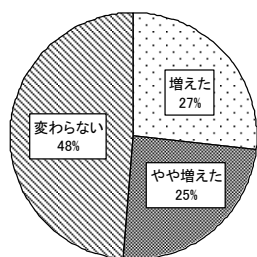


図-1 路線バス利用頻度の変化

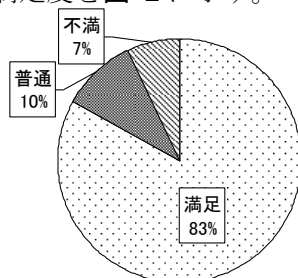


図-2 運賃に対する満足度

約半数が利用頻度について「増えた」「やや増えた」と回答しており、コインバス事業の効果と考えられる。また約8割の被験者が運賃に対して「満足している」と回答している。

次に、バスの利用頻度が増えたと回答した被験者の生活の変化を図-3に示す。「買い物で行ける範囲」「買い物などの外出回数」に関して「増えた」と回答した被験者が多く、バスの利用頻度の増加によって生活の質が向上したと考えられる。

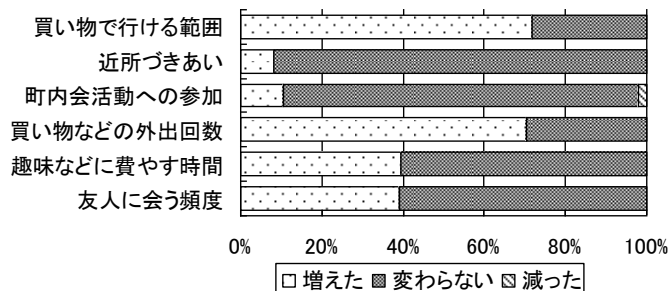


図-3 利用頻度が増えた被験者(70歳以上)の生活の変化

(2) 事業非対象者の意識

70歳未満の被験者には将来の運転への不安やコインバス事業の利用意思を質問した。約7割の住民が将来運転することに対して「不安を感じる」「言われてみると不安」と感じており(図-4)、さらに、9割以上の被験者が将来、この施策を「利用したい」「場合によっては利用したい」と回答している(図-5)。すなわち、事業の非対象者であってもこの施策に対する関心は高いと考えられる。

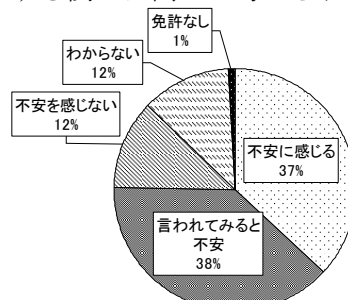


図-4 将来の運転への不安

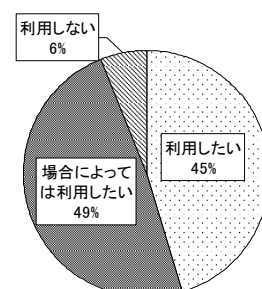


図-5 コインバスの利用意向

キーワード：意識調査分析、公共交通、高齢者コインバス事業、ロジット型価格感度測定法(KLP)

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL (018)-889-2767 FAX (018)-889-2975

また、70 歳以上の家族がいる被験者にはその家族の生活変化への期待を質問した。70 歳以上の被験者と同様に買い物で行ける範囲の拡大や買い物などの外出回数の増加に対する期待が高く、また趣味などに費やす時間の増加への期待も高い(図-6)。

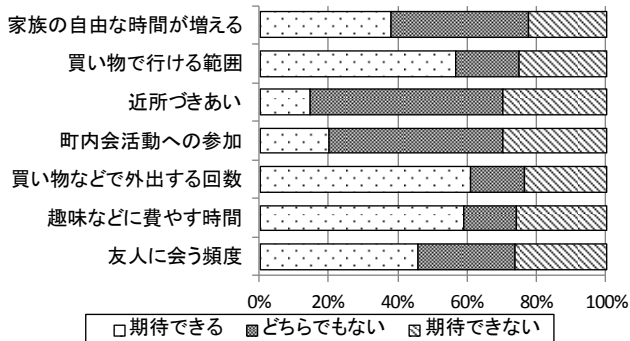


図-6 70 歳以上の家族がいる被験者の期待

4. KLP による路線バスに対する費用負担意識分析

(1) ロジット型価格感度測定法 (KLP) の概要¹⁾

ロジット型価格感度測定法 (KLP) では、ある商品に対して「安いと感じる」、「高いと感じる」、「高すぎて買わない」、「安すぎて買わない」価格という 4 つの価格を消費者に問う。回答された価格からロジットモデルで回帰した相対累積度数曲線を求め、その交点の価格を評価指標とする(図-7)。ここで「安いと感じる価格」と「高いと感じる価格」は余事象として「安いと感じない価格」、「高いと感じない価格」を求める。

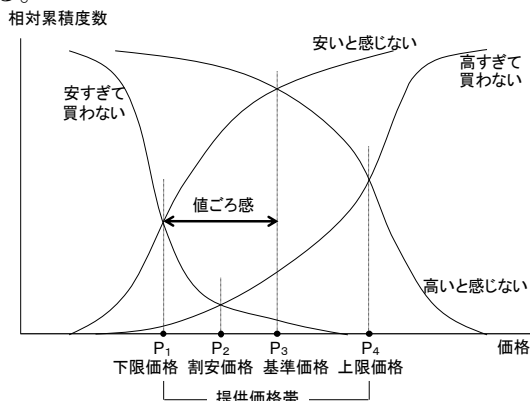


図-7 ロジット型価格感度測定法 (KLP) の評価指標

- 1) P₁(下限価格): 消費者全体に受け入れられる下限。
- 2) P₄(上限価格): 消費者全体に受け入れられる上限。
- 3) P₃(基準価格): 高いとも安いとも感じない、バランスがとれていて、値ごろ感の基準となる価格。
- 4) P₂(割安価格): 品質の割に安いと感じる分岐点。
- 5) P₁～P₄(受容価格帯): 消費者全体に受け入れられるものであり、事業者が提供すべき価格帯。
- 6) 「値ごろ感」: 消費者全体が安いと感じはじめる基準価格より安く、かつ下限価格より上で生じる。

(2) バス運賃に対する費用負担意識

コインバス事業における運賃に対し、4 つの価格を回答してもらった。下限価格は 70 歳以上と 70 歳未満のいずれも現状のコインバス事業の運賃(100 円)を上回っている。すなわち、被験者はコインバス事業の 100 円という運賃に対し、安すぎてこの事業を維持できないとの不安を感じていると考えられる。

表-1 70 歳以上である被験者の費用負担意識 (円)

下限価格	割安価格	基準価格	上限価格
117.7	137.5	167.3	291.5

表-2 70 歳未満である被験者の費用負担意識 (円)

下限価格	割安価格	基準価格	上限価格
116.8	153.3	164.4	244.3

(3) 高齢者コインバス事業に対する費用負担意識

70 歳未満の被験者には高齢者コインバス事業の維持に負担する費用についても回答してもらった。秋田市では 8100 万円を関係事業費として計上しており²⁾、一世帯あたり年間約 598 円を支払っていることになる。下限価格から上限価格までの幅が比較的に広いことから、この事業に対する費用負担意識にはばらつきがあるといえる。また、現在の負担額は下限価格より低い金額であり、70 歳未満の被験者は、現在の負担額ではこの事業を維持できないと感じていると考えられる。

表-3 高齢者コインバス事業に対する費用負担意識 (円)

下限価格	割安価格	基準価格	上限価格
819.9	1118.2	1188.6	1801.9

5. おわりに

高齢者コインバス事業の実施に伴い、70 歳以上である被験者の約半数が路線バスの利用が増え、さらに生活の質に関して向上効果が見られた。特に「買い物で行ける範囲」「買い物などの外出回数」ではコインバス事業の効果が大きいものといえる。また、事業の対象ではない 70 歳未満の被験者の多くが将来の運転に不安を感じており、将来の事業利用意向も高いものであった。しかしながら、費用負担意識分析からは事業の継続に対する不安感が明らかとなった。すなわち、事業に対する受容性は高いものの事業の継続性に不安があり、今後の課題といえる。

参考文献

- 1) 岸邦宏・内田賢悦・佐藤馨一: 航空運賃に対する利用者の価格感度に関する研究, 土木計画学研究・論文集, Vol. 16, pp187-194, 1999
- 2) 秋田魁新報社, さきがけ on The Web, 70 歳以上の外出支援 10 月から秋田市で路線バス 1 回 100 円, 2011